



長壁 泰夫さん 緑化功労 感謝状を授与 される

「今日の私は、明日の私の先生」が心の支え

本年六月、倉渚町三ノ倉の長壁泰夫さん（七十七）が、永年の森林整備の功績により、国土緑化推進機構理事長から感謝状を授与されました。

長壁さんは昭和十七年九月、旧榛名町上室田の生まれ。中学校卒業後、一年間ほど東京で働きましたが、環境が合わず故郷に戻ります。そんな中、実兄からの誘いを受け、旧倉渚村の製材会社で伐採や搬出に従事することになりました。

その当時の山仕事は、チェンソーもなく、伐採には鋸を、また搬出は木馬を使ったり、時には肩に担いだりという、とてもきつく危険な一面もありました。

しかし、まだ十代の長壁さんは「体も鍛えられるし、何といっても面白い」と山仕事を続けま

チェンソーを究める

その後、チェンソーが普及し、長壁さんも使い始めますが、チェンソーの性能が悪くまっすぐに切断できません。探求心旺盛な長壁さんは、仕事が終わった後、遅くまで会社に残り、チェンソーの目立てを究めます。その甲斐あって、長壁さんの伐採後の木の断面は、まるでカンナをかいたようにスベスベに。「名人」としての評価が高まります。

昭和四十八年には、請われて旧倉渚森林組合に入職。「今日の私は、明日の私の先生」の言葉を心の支えに管内の山林での造林、保育や伐採の作業に携わり、地域の豊かな森づくりに邁進してきました。

山のために体力づくり

仕事に対する真面目で前向きな姿勢が評価され、平成十三年の森林組合の合併時から、総班長として十数人の仲間を束ね、定年退職後も指導員として後進の指導を続けました。

二年前に森林組合を退きましたが、現在も市シルバー人材センターで、木の伐採などを続けています。

「山の仕事を続けるには、体力づくりが欠かせない」と、今でも毎日一万歩のウォーキングとダンベルを使つての筋トレを続けています。

根っからの「山人」長壁さん、これからもお元気で大好きな山仕事を究めてください。

素材価格の動向



スギの素材価格は、昭和五十五年をピークに下落してきました。

昭和六十二年から住宅需要を中心とする木材需要の増加によってわずかに上昇しましたが、平成三年からは下落し、今年のコロナ禍発生までは、横ばいで推移してきました。

コロナ発生以後の経済の先行き不安のため、また、昨年十月の消費税の増税もあり、住宅着工戸数が減少し、素材価格も一割以上安くなっています。